

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



新しい一年がスタートしました！

毎朝、誰よりも先に、子どもたちのかわいらしい笑顔に出会える幸せを、また一年頂くことになりました。同時に、この大切な命をお預かりし、しっかりと守り、育てて行かねばならない責任の重さを感じ、改めて身の引き締まる思いです。

今年度の園児数は、新入園児五十六名を加えて、百三十六名です。

子どもたちは勿論、先生方も新しいメンバーが加わり、程良い緊張感と刺激の中で、一日一日を大切に、時を刻むようにして過ごしています。そして良い意味での「化学反応」が起きています。その光景は、新たな何かが生まれそうな予感すら与えてくれます。



附属幼稚園の存続をかけた改革も正念場を迎えます。大分県の幼児教育界に貢献し、大分市地域に必要とされ、大分大学・学部の特徴に位置づけて頂ける幼稚園像を、保護者の皆様と共に描きながら、一枚岩となって、できることから一つ一つ取り組んで参ります。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

園長 石川照代

お花をつんで遊んでもいいんだよ！

入園して初めての春、園庭に咲く花を摘んで遊ぶ。お花をつんで遊ぶのは、子どもにとって、自然と触れ合う貴重な体験です。お花をつんで遊ぶことで、子どもは五感を刺激し、自然の美しさを感じ、季節の移り変わりを体感することができます。園庭には、お花をつんで遊ぶためのスペースを設け、子どもたちが安心して遊ぶことができます。

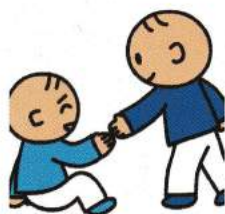


—お願い—

不審者対策をはじめ、子どもたちの安全確保が最大の課題です。園庭の安全確認や、お花をつんで遊ぶ際のルールやマナーの徹底をお願いいたします。また、お花をつんで遊ぶ際には、お花をつんで遊ぶためのスペースを設け、子どもたちが安心して遊ぶことができます。

「ありがとう」の心を育てたい！

昨年度の「保護者アンケート」で、めざす子どもの3つの姿のうち「心豊かなやさしい子どもを育てているか」に対する評価が相対的に低くなっていました。「言葉遣いが気になる」などの声も聞きました。全ての子どもに言えることですが、言葉遣いには、子どもの心の育ち（発達段階）やその時の心理状態が反映されます。決して一喜一憂する必要はありませんが、表面的な言葉遣いの訓練になってしまわないように、長い目で見ながらも、丁寧な言葉を育てたいとて大切なことです。人間関係力、コミュニケーション力の基本でもあります。



スポーツ選手に代表されるように、物事を極めた人々は、必ず自分を支えてくれた人や物に対する「感謝」の念を強く持っています。逆に言えば、「感謝」できる人が、自分の力を出し切り悔いの無い人生を歩めることとなります。

園では、今年度「ありがとう」（＝感謝）について、ご家庭と共に考えて参りたいと思います。家庭でのエピソードもお寄せ下さい。本紙上で交流しましょう。お待ちしております。